

## 地域に根ざした水産業を求めて

久慈町漁業研究会 トロール研究部会  
会 員 小 泉 光 彦

### 1. 地域の概況

久慈町は、世界に名だたる日立製作所発祥の地で、世帯数の6割がその関連会社に勤める典型的な企業城下町である日立市の南端、久慈川の河口に発達した漁業の町である。現在は重要港湾日立港に隣接して太平洋に面する外港を生産基地として漁業を営んでいる。

### 2. 漁業の概要

久慈町漁業協同組合は正組合員72名、准組合員22名、合わせて94名で構成されている。さんま棒受網、小型底曳網、船曳網、建網、釣、採鮑など種々の漁業が営まれており、平成9年度の自港水揚げ取扱高は6億8千万円であった。

### 3. 研究グループの組織と運営

久慈町漁業研究会は14名のモーター船研究部会と9名のトロール研究部会の2部会で構成され、ヒラメの中間育成、放流、資源の有効利用等に関する活動を行っている。

### 4. 研究・実践活動課題選定の動機

昭和50年代後半の当地区トロール漁業経営は、流通の構造上、中央卸売市場が休みの週末に起こる浜値の低下に加え、昭和54年の第2次オイルショック後の燃油価格の高騰等に伴う経費の増大などによって、極めて厳しい状態となった。また、漁業労働力については日立市が典型的な企業城下町であるという背景に加え、定休日が少ないなどの漁業の労働実態によって、後継者不足と乗組員の高齢化が深刻な問題であった

そこで、これらの諸問題を少しでも解決するためには、まず、私達漁業者の発想の転換を図る必要があると考えた。それは、‘魚を獲ること’だけを考えるのではなく、‘獲った魚を売ること’についても従来以上に考え、行動していかなければならないということである。そのためには「地域に根ざした水産業」を模索する必要があると考え、昭和59年から当地区トロール漁業の実態調査に着手し、その後、消費者の地元産魚に対する意識調査等を行うとともに、様々な形で地域住民との交流活動を進めてきた。

### 5. 研究・実践活動状況及び成果

①魚価安定のための具体策を検討するための資料を得るため、以下の調査を行った。

S59：S48～58年の久慈地区トロール漁業の水揚、燃油価格等の動向調査

S60：近郊4市1町1村の住民を対象とした久慈浜産魚等に関する意識調査

S61：久慈地区と比較するための県内他地区トロール漁業の水揚及び魚価動向調査

以上、3カ年の調査により、トロール漁業における経費の大きな部分を占める燃油価格については、昭和48年を基準にすると、昭和57年にはその5倍まで跳ね上がり、水揚げ高の増加を大きく上回る経費の増大が確認できた(図1)。ちなみに、当時のトロール漁船1経営体当たりの平均水揚げ高は1900万円のところ、燃油代の支出は750万円にも上っていた。一方、当時の水揚げ物の魚種組成は総水揚げ高の9割がボタンエビやヒラメなどで占められ、雑魚は1割と、当地区のトロール漁業は主に中高級魚に依存しているのが特色であった(図2)。しかし、ボタンエビ等高級魚の水揚げ量は減少傾向にあった。ただし、総水揚げ高はスタン化に伴う技術革新、そしてズワイガニの豊漁など魚種交代にも支えられ、特に減少することなく推移した(図2)。

次に、近郊市町村民を対象とした意識調査(図3)では、特に「久慈浜産の魚を意識して買いますか」という設問に対する回答に注目した。結果として、「意識する」という回答が地元久慈浜の住民では44%であったのに対し、同じ市内でも中心部の住民ではわずか6%と極めて意識が低いという事実が明らかとなった(図4)。しかし、同じく市内中心部の住民が「久慈漁港内に魚の直売店があれば買いに来たいですか」という設問に対しては71%が「買いに来たい」と回答したことから、地元産魚の直売店に対する市民の潜在的な要求は強いことがうかがわれた(図5)。

また、他地区トロール漁業との比較では、平均魚価について波崎地区(銚子港水揚げ)に比べ、当地区の方が常に安価で推移していることがわかった(図6)。これは、仲買人等の受入れ態勢や水揚げされる魚種の違いは無視できないが、観光地の存在にも左右されていると思われた。

3カ年の調査結果を基に、総合的に判断し、魚価を安定させるためには「組合直営の魚貝類販売店」の設立が有効であると考え、トロール船主会、組合、さらに県や市の行政にその設立を提案した。その結果、予備調査の意味で昭和62年から3年間毎週日曜日に、魚市場内でトロール漁業者を中心にして、仲買人等と「久慈浜いきいきお魚市場」を開いたところ、消費者から好評を得ることができた。この後、関係各方面のご尽力により、販売店建設が具体化の方向に進み、平成4年に、組合の南1kmほどの所にある「久慈再開発用地」内に、国の補助事業による「日立おさかなセンター」が設立された。

②おさかなセンター設立の効果等を把握するため、以下の調査を行った。

H8：近郊市町村民を対象とした久慈浜産魚等に関する意識調査

H10：H9久慈地区トロール漁業魚種別水揚げ状況調査、S61～H9年のセンター及び町内小売店による久慈地区トロール水揚げ物買付動向調査

意識調査結果で特筆すべき点は、日立市中心部の住民の「久慈浜産魚を意識して買う」という回答率が前回の6%から66%へと大幅に増加したことで、日立市内に関しては久慈浜産魚に対する認識がほぼ浸透したものと受け取れた(図7)。

また、水揚げ調査からは以前、雑魚として取り扱われていた魚種が価格の上昇によって、総水揚げ高に占める割合を昭和50年代後半の1割から4割へと大きく伸ばし、中高級魚の大幅な減少分を十分に埋め合わせていることが明らかとなった(図8、9)。

さらに、センター及び町内小売店によるトロール水揚げ物の買付動向調査からは、センター設立前の昭和61年に3200万円(総水揚げ高の1割)であった買付額が、平成9年には8900万円(総水揚げ高の3割)にまで増大していることがわかった(図10)。セン

ター設置が町内小売店の経営を悪化させることなく、両者が共存して買付する形になっている点は価格決定権が従来からの出荷型仲買人に加え、センター等地元供給型仲買人にも分散したことによるバランスのとれた価格形成を促している。そして、それが雑魚の有効利用及び価格上昇等につながり、漁業経営の安定に寄与している。

### ③地域住民との交流活動

S 6 0 : 市民を対象とした魚料理教室 (参加人数 2 2 名)

S 6 2 : 地元の祭礼に「煮ダコ」販売のため、出店

H 2 : 市内の小学校 1 校において 5 年生を対象に水産教室 (参加人数 9 5 名)

H 8 : 市産業祭において「アンコウどぶ汁」を 1 5 0 0 人に無料配布

H 9 : 市内の小学校 1 校において 5 年生を対象に水産教室 (参加人数 6 2 名)

H 1 0 : 市内の小学校 4 校において 5 年生を対象に水産教室 (参加人数合計 3 5 6 名)

「日立の水産業を学習する」というテーマで市民と交流 (参加人数 3 0 名)

水産教室は 2 時限分連続で行われたが、内容的には授業が一方通行にならないよう、寸劇形式を取り入れるなど、子供達に参加体験してもらうことを心掛けて進めた。

平成 1 0 年度に小学校 4 校からの要望があったことは、学校側が好意的に評価してくれた結果と受け止めている。また、「日立の水産業を学習する」というテーマでの市民との交流は、小学校で行った水産教室を参観した母親から大人を対象に水産業の話をしてもらいたいとの要請を受けて実現した。このような状況から、漁業に対する理解の促進、漁業者に対するイメージアップが徐々に図られていると感じている。

## 6. 波及効果

おさかなセンターはテレビ等のメディアでも度々紹介され、現在、推定で年間約 1 0 0 万人の利用客が訪れるようになっている。市の観光マップにものり、広い意味での観光名所として定着し、久慈町だけではなく、日立市の活性化にも貢献している。

今回のような長期間にわたるソフト面の活動は、私達にとって最も苦手とする分野で、活動を進めて行く過程で、「すぐに答の出ない苛立ち」から足並みが乱れそうになる局面も度々あったが、何とかそれを乗り越えてきたことは今後の活動を進める上でも大きな収穫であった。また、トロール研究部会で始めた交流活動が、研究会全体での取り組みになったと同時に、隣接漁協の研究会とも合同で取り組むようになってきた。

## 7. 今後の課題

「魚が空気のような存在」であってはならないし、漁業をもっと「顔の見える産業」に育てて行かなければならないと思う。そのためには、様々な交流を通じて子供からも大人からも理解される「地域に根ざした水産業」を求めて 1 歩でも近づく必要がある。私達は今後も内容を改善しながら交流活動を積み重ね、消費者の方に水産業に対し、何らかの魅力を感じていただくとともに、私達自身を成長させていきたいと思う。この活動は長い眼で見れば、漁業経営の安定、漁業地域の活性化につながっていくものと信じている。さらに、私たちが漁業を営む上では、混獲されたアンコウなど有用魚類の小型魚は海に戻すなどこれまで以上に資源管理に努めるとともに、水揚げした魚は無駄なく販売していくことも重要と考えている。



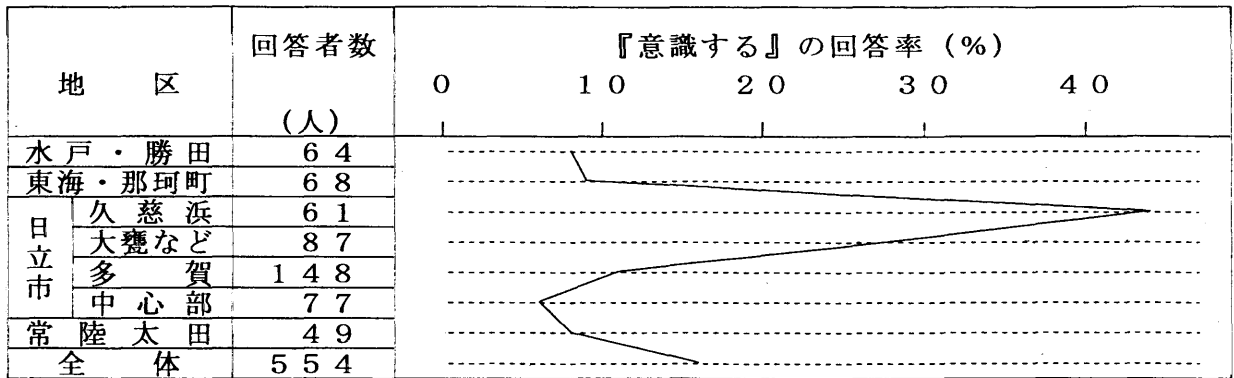


図4 設問『魚を買うとき、久慈浜産を意識するか』に対する『意識する』の回答率

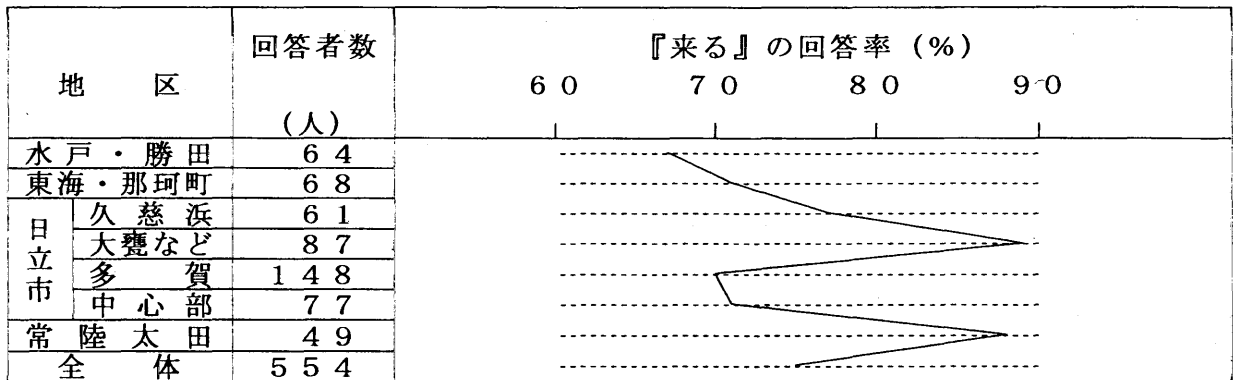


図5 設問『久慈漁港に魚の直売店があれば買いに来るか』に対する『来る』の回答率

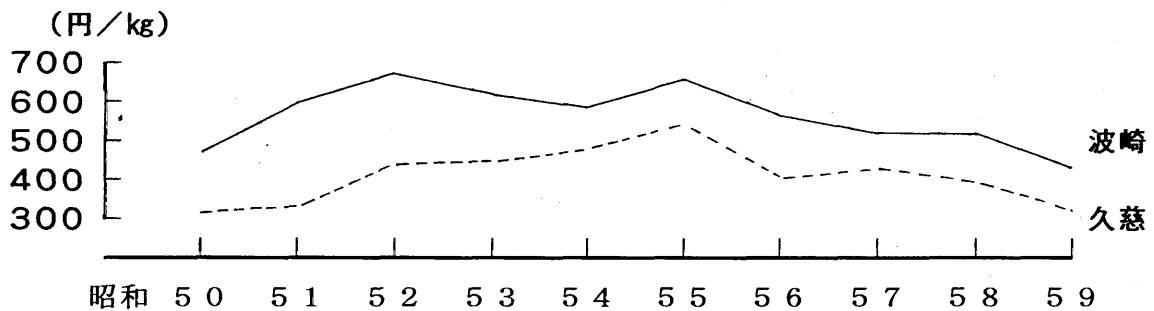


図6 久慈及び波崎地区トロール漁業による漁獲物の平均単価の推移

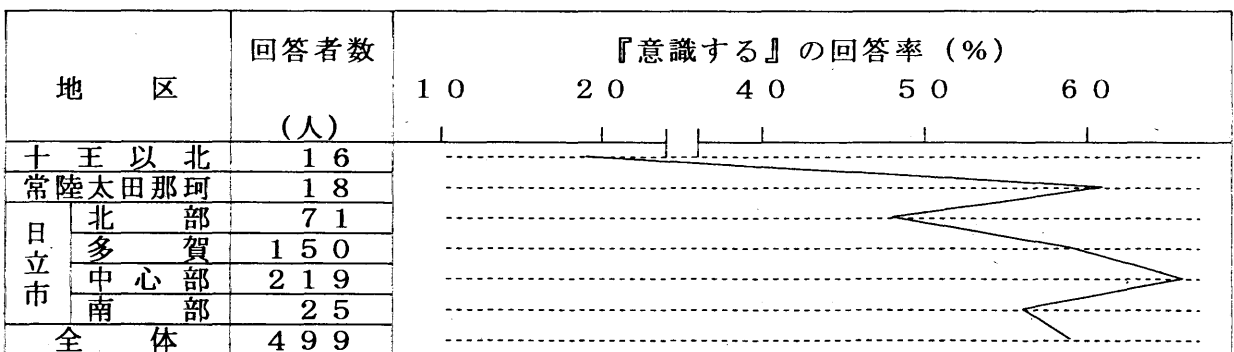


図7 設問『魚を買うとき、久慈浜産を意識するか』に対する『意識する』の回答率

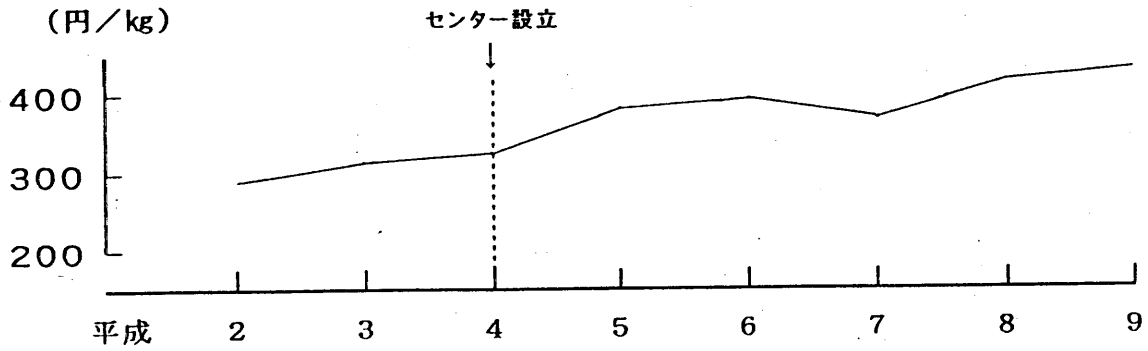


図8 センター設置前後における雑魚の平均単価の推移

昭和56年  
総水揚高  
2.6億円

タコ類 20%	イカ類 19%	ホタテ 24%	ヒラメ 11%	カレイ類 14%	その他 12%
------------	------------	------------	------------	-------------	------------

平成9年  
総水揚高  
3.3億円

18	32	11	27	アコウ 10	巻貝 12	他 9
----	----	----	----	-----------	----------	--------

※その他の水揚量 S56: 135t  
H9: 295t

ゲゾー1  
アコウ2  
ヒカリ5

図9 昭和56年と平成9年のトロール総水揚高に占める魚種別比率

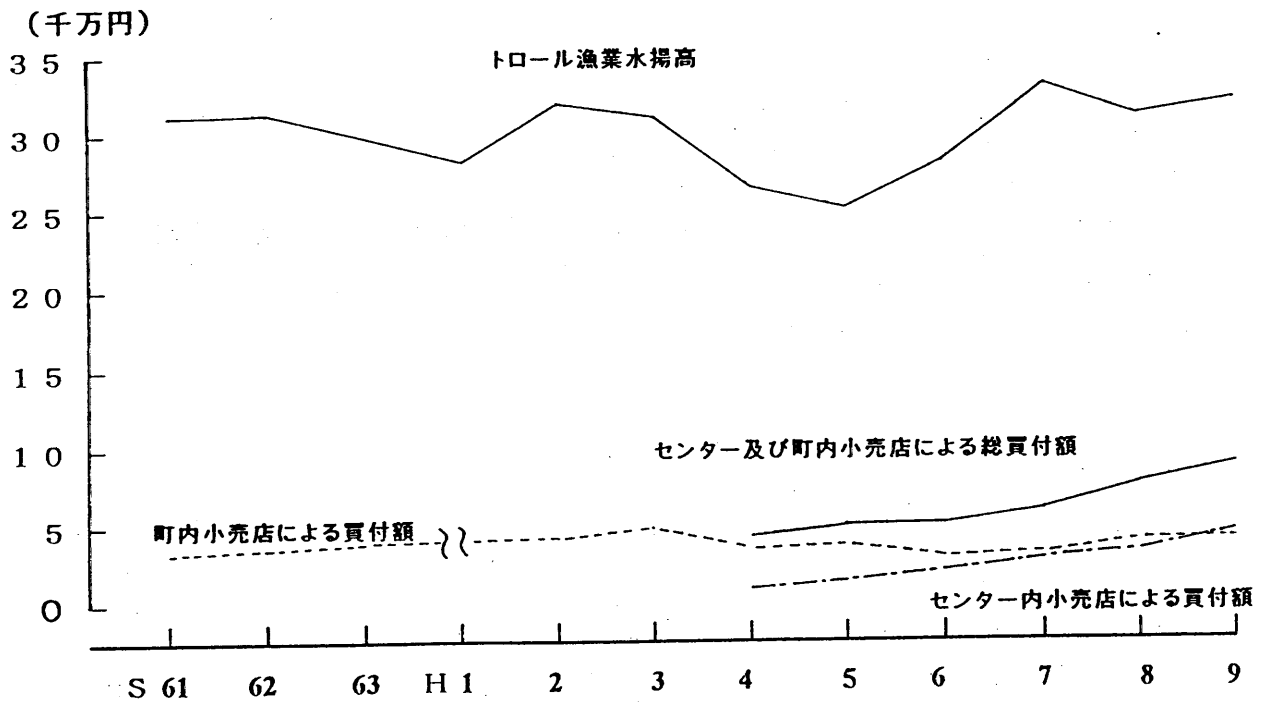


図10 久慈地区トロール漁業の水揚及び小売店によるトロール魚の買付状況

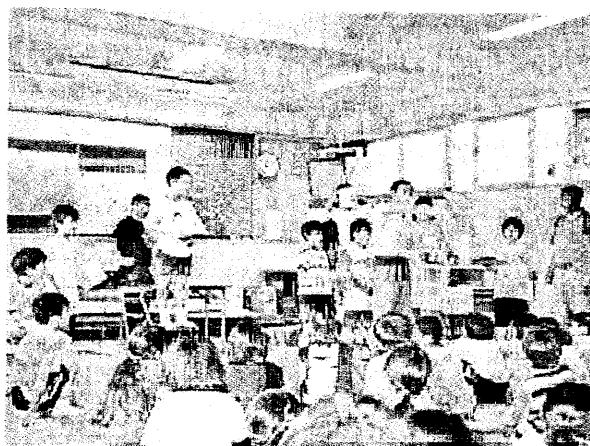
## 小学生を対象に実施した水産教室の情景



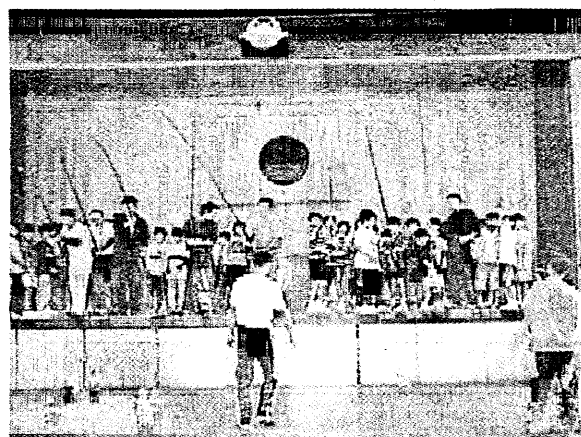
モールス信号打電体験



模型によるサンマ棒受網漁業の説明



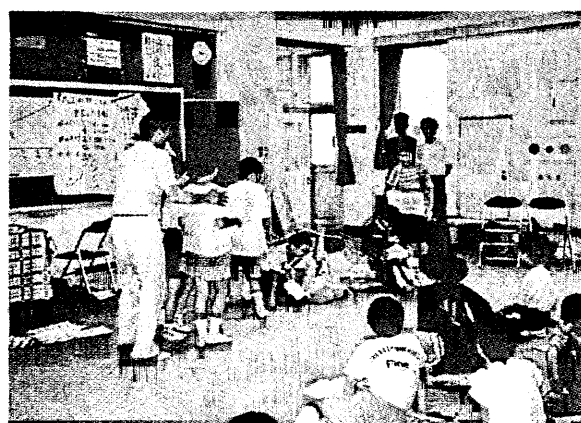
寸劇形式による森と海との関係説明



カツオー一本釣りの模擬体験



寸劇形式による資源管理型漁業の説明  
(ヒラメの資源管理)



寸劇形式による資源管理型漁業の説明  
(漁網を使った資源管理体験)

